

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立上依知小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 武 枝美子

学校教育目標	学校経営の方針
自分で考えて、判断し、行動する児童の育成	学校教育目標の具現化のため、全教職員による協力指導体制を確立し、児童をチームで育てる。 ・予測困難な時代を生き抜く、「自分で考えて、判断し、行動する児童」の育成 ・調和のとれた教育課程の編成 ・主体的に学ぶ力の育成、確かな学力の定着に向けた授業改善 ・児童の安心・安全確保に向けた環境整備の充実 ・人権の尊重と、自分のよさや可能性を伸ばす支援・指導の充実 ・保護者・地域と協働し、地域とともにある学校づくりの推進 ・学年だより、学校だより、保護者連絡ツール等による積極的な情報発信 ・働き方改革

今年度の重点目標

- 主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行い、「生きる力」の育成に必要な資質・能力を育む。
 ○自分の良さや可能性を知り、かけがえのない自分を大切にするとともに、他者の気持ちを思いやる心を育てる。 ○自分自身で健康について見つめ考える力を育てる。
 ○自分の命を自分で守る意識を高め、自分で考えて安全な行動をとることができる児童を育てる。 ○自他を認め大切に、個々の成長を促す学級経営や学校行事を行う。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行う。	1	「個別最適な学び」を意識し、授業改善に取り組む。	自分に合った授業形態や課題を選ぶ等、「個別最適な学び」を意識した授業を行ったことで、児童が主体的に学ぶ姿が見られた。	個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、深い学びの実践につなげていく。
家庭学習習慣の確立を図る。	1	ICTを積極的に活用し、自分の課題に応じて内容を工夫する。	ICTを活用したことで、宿題に取り組みやすくなった。保護者にも協力をいただき、習慣化してきている。児童の93%が毎日していると回答している。	今後も基礎的な学力をしっかり身に付けることができるようにICTを活用して、主体的に取り組めるようにしていく。
多くの職員で一人一人の児童に関わり、学習や生活に必要な支援・指導を行う。	1・2	全職員で、児童の実態把握に努め、チームで、機を逃さず適切な支援・指導ができるようにする	全職員で情報共有し、さらに週1回児童指導・支援の関係者で情報共有した。その結果、チームで機を逃さず、その時々に応じた最善の支援・指導をすることができた。保護者の87%が「思う・やや思う」と回答している。	今年度の取組を継続し、児童や保護者が相談しやすいように相談体制の周知をしたり、環境を整えたりして取り組んでいく。
人との好ましい関わり方の習得を目指す。	2・3	周りの人との好ましい関わり方を習得できるように、毎月テーマを設け、ソーシャルスキルの取組を行う。	登校時や下校時に挨拶のできる児童が増え、毎月のソーシャルスキルトレーニングの取組も進んだ。児童の挨拶について来客より褒めていただくことが増えた。	高学年や委員会の挨拶の取組を更に積極的に進めていく。ソーシャルスキルトレーニングについても、効果が上がるように取り組む。
自他の健康に気を付けて生活する態度の育成を図る。	2・3	熱中症の予防等の保健指導、バランスの良い食事の大切さ等給食指導を年間を通して計画的に行う。	保健だより等で保護者に知らせたり、児童が委員会活動において呼び掛けたりして、保健の意識は高まった。給食においても食育の指導を行うことができた。	児童が健康に気を付けながら生活できるように指導を継続し、学校だよりや保健だより等を通して、今後も発信していきたい。
学級経営や異学年交流を通して、互いの良さを認め合う集団づくりを目指す。	2・3	自他を認め大切にするために、成長できる場の設定や異学年との交流を深める取組を行う。	異学年交流であるたて割り活動は、遊びの回数を増やしたり、ペア学年を学期によって替えたりして内容の充実を図った。お互いの良さを認め合える場面が増え、さらに交流の輪が広まった。	集団で活動することのよさについて児童が体験できる場面を工夫し、異学年交流の取組を継続したい。

目標をもって生活し、自己実現に向けた行動力の育成を目指す。	1	自己実現に向けた行動力の育成を図るために、キャリアパスポートを活用し、自分自身の成長を実感できる取組を目指す。	毎学期の目標や、各教科の単元や毎時間の目標等を設定し、キャリアパスポートの取組に児童は慣れてきた。保護者による児童への前向きな声掛けが増えてきた。	学校生活全般において、児童が目標をもって取り組めるようになってきている。今後も主体的に自己実現を目指せるよう、支援していきたい。
安全に対する意識を高め、安全で落ち着いた学校生活を送れるように努める。	2・3	毎月「安全の日」を設け、各学級で繰り返し指導する。「自分の命は自分で守る」という意識の育成を目指し、避難訓練等を実施する。	地域の見守り隊の方が毎日登下校を見守ってくださっていることもあり、児童の安全への意識は高い。しかし、登下校中の様子からまだ意識の低い児童がいることが課題である。	「自分の命は自分で守る」ことができるように、地域や保護者と連携して、今後も交通安全の取組や避難訓練に継続して取り組んでいきたい。
地域や保護者と連携を深めながら、開かれた学校づくりに取り組む。	3	学校だよりや保護者連絡ツールを活用し、情報発信に努める。地域・家庭と協働した学校運営を進められるよう努める。	学校だよりや学年だより、保護者連絡ツールを活用し、学校や児童の様子を発信することができた。学校運営協議会議員の方々、見守り隊、保護者と連携を図りながら、児童の学校生活全般を協働して支えることができた。	引き続き、学校だよりや、保護者連絡ツール、学校運営協議会等を通じた情報発信に努め、保護者や地域とともに児童が主役の学校づくりに取り組んでいきたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

全体的に肯定的な回答と意見をいただいた。特に「挨拶ができる」「本をたくさん読む機会を増やす」「自分の命は自分で守る」子どもに育ててほしいとのことであった。今後取り組みたいことは、「身近な方が講師のキャリア教育」、「体力の向上への取組」、「自転車を活用した交通安全教室」等であった。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校教育目標に向けて、各グループ・担当で取組を進めている。どの取組もまだ途中の段階ではあるが、学校評価では高評価をいただいているものもあるので良いところは継続し、見直すところは見直し、次年度も継続して取り組んでいきたいと考えている。